

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
1	<p>新病院での小児医療についても説明をして欲しいです。 舟入市民病院が担っていた機能(24時間・365日小児医療やレスパイト部分、小児専門医療など)は、どのようになるかと</p>	<p>新病院の基本構想においては、現在、県立広島病院が担っている生殖医療から周産期、新生児、小児を含めて一貫した医療を提供する成育医療センターとしての機能に加え、舟入市民病院や土谷総合病院の小児医療機能を再編・集約することにより、小児の一次救急から三次救急まで24時間体制で対応する中国地方初の小児ER機能を有した小児救命救急センターの設置を目指しています。</p> <p>また、子どものこころの問題に対応する児童思春期病床も新たに整備するなど、日常的な医療を担う地域の医療機関では対応できない子どもの疾患に対して、専門的な医療や救急医療を提供する子どもの医療の中核となる病院に位置付けることとしています。</p> <p>なお、舟入市民病院がこれまで担ってきた機能については、新病院へ引き継ぐことを基本として、検討を進めていきます。</p>
2	<p>構想は、県内の病床集約と、それに連動する人員集約(削減)につなげるものと受けとめられます。しかし、現状でも急性期・高度急性期機能を担う医療現場では、慢性的な人手不足により従事者への労働強化が生じており、患者サービスの質を確保しがたくなっている問題が深刻です。構想が県民に対する医療提供の質を向上させるものであるためには、医療従事者を計画的に増員・確保していく計画を並行させる必要があると考えます。県としては、診療報酬制度はじめ医療関係法制度に定められた「最低基準」にとどまらず、現配置状況を上回る医療従事者の確保・増員計画を設け実践されるべきではないでしょうか？今回構想においても、これに連動する(総枠での)増員計画を立案・実践されることを願います。いかがでしょうか？</p>	<p>今後、高齢者人口の増加に伴って高齢者の救急患者が増えることが見込まれる中で、広島都市圏では医療資源が分散しているため、個々の医療機関では人手不足を理由として救急患者を確実に受け入れることができない状況にあります。</p> <p>また、2024年から始まる医師の働き方改革で医師の時間外勤務の上限規制(年間1,860時間、2036年から960時間)が導入されると、ますます夜間の救急医療体制が維持できなくなるおそれがあります。</p> <p>さらに、本県では、若手医師が減少傾向にあり、中山間地域などの医師不足がより深刻になるおそれがあり、若手医師が望む多くの症例が経験でき、指導体制が充実している病院の存在が期待されています。</p> <p>このため、医療資源を集約することで救急患者の応需率を高めるとともに、医師を惹きつけ、地域に派遣できる拠点となる病院を整備しようとするものであり、こうした医療資源の集約により期待される効果として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 症例が集積され、経験値が高まることで治療成績が上がる。 ・ 多くの症例を経験できることで県外から医師が集まる。 ・ マンパワーの充実により、救急患者の応需率が高まる。 ・ マンパワーの充実により、新興感染症対応力が高まる。 ・ マンパワーに余力が生まれ、医療従事者の負荷が減る。 ・ 広域的な人事交流により、医師の偏在解消が図られる。 ・ 高額医療機器の稼働率が上がり、採算性が向上する。 などがあるものと考えています。 <p>新病院の基本構想では、人員削減を目的としておらず、マンパワーを集約することにより、医療従事者の負荷を軽減するとともに、救急の応需率を高めるなど、県民の皆様に質の高い医療を提供できる体制を構築することを目指しています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
3	<p>新構想による病院統廃合・再編成での病床の削減について 県の高度医療の病院構想は1000床を備える高度医療専門の新病院建設し、それに伴い統廃合・再編対象病院は(1)県病院712病床、(2)JR 病院 275 病床、(3)中電病院 247 病床は全部統合(廃止)で新病院へ、合わせて(4)舟入市民病院、(5)土谷病院、(6)広島記念病院、(7)吉島病院、(8)マツダ病院の一部の診療科も新病院に移し、(7)吉島病院は(6)記念病院に統合・廃止・再編を骨子とした構想案です。 (1)(2)(3)病院で計 1235 病床が新病院1000病床へ、再編対象病院(4)(5)(6)(7)(8)病院で計 1219 病床が再編後(4)(5)(6)(8)病院で計何病床になると想定されているのでしょうか。この地域想全体で病床の削減数は何床(何%)となる見込みでしょうか。</p>	<p>新病院の基本構想では、再編に向けた方向性を各病院と共有したところであり、具体的な病床機能別の病床数については、今後の各病院との調整により決定し、地域医療構想調整会議等において、地域での合意形成を図っていきたく考えています。 なお、今回の再編統合は、急性期機能の新病院への集約するとともに、過剰な急性期病床から不足している回復期病床への転換を促す地域医療構想の方向性と合致しています。</p>
4	<p>構想の実現過程では、当然ながら病床や医療機能の集約・移転対象となる地域での住民との合意形成、さらに構想が目的のひとつに上げる県北・中山間地域での医療提供体制の拡充について当事者である地域住民の理解や支持が必要と考えます。報道によれば、県は「今後」3回程度で集約・移転対象となる地域住民への「説明会」を企画されるとのこと。これでは県民の知恵や要望を計画に反映させるには不十分で無いかと考えます。県として、「住民の意見を受けとめる機会」について、対象地域や開催頻度を計画確定までに拡充するお考えはありませんでしょうか？</p>	<p>医療再編を進めるに当たっては、再編による影響が予想される地域において、皆様が引き続き、安心して医療が受けられる体制について、十分に検討する必要があるものと考えています。 このため、県立広島病院及び中電病院が立地する南区・中区の地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めることとしており、3月24日に第1回の会議を開催したところであり、引き続き数回開催する予定です。 この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聴きするとともに、両病院の患者を疾患別、住所地別に分析し、将来の医療需要や通院のアクセス、周辺の医療資源の状況などを勘案し、必要な医療の在り方について検討していくこととしています。 また、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、医療の在り方と併せて検討していきます。 なお、「住民の意見を受けとめる機会」については、今後もセミナーを開催するなど、県民への周知やコミュニケーションの機会を増やしていきたいと考えています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
5	<p>病院統廃合を患者家族・地域住民への説明(会)について2023(R5)年度予算の地域機想推進事業203,367千円の中に、医療機関の再編により影響が予想される各地域において、地域住民や有識者意見を踏まえ、地域の実情に即した地域完結型医療の在り方等の検討会に22,500千円の予算がついています。</p> <p>構想では宇品から県病院がなくなることになっていますが、JR病院、中電病院、吉島病院もなくなります。県病院を例にとると年間利用者(入院患者約14400人 内南区約4600人、外来患者約44300人 内南区約13600人)と家族に病院がなくなることについて、どのように説明される予定でしょうか。地域住民、南区民を対象とした説明会はいつ頃、どのように開催される予定でしょうか。また、地域完結型医療の在り方等の検討会には関心のある地域住民、区民が参加できる組織として考えられていますでしょうか。</p>	<p>医療再編を進めるに当たっては、再編による影響が予想される地域において、皆様が引き続き、安心して医療が受けられる体制について、十分に検討する必要があるものと考えています。</p> <p>このため、県立広島病院及び中電病院が立地する南区・中区の地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めることとしており、3月24日に第1回の会議を開催したところであり、引き続き数回開催する予定です。</p> <p>この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聴きするとともに、両病院の患者を疾患別、住所地別に分析し、将来の医療需要や通院のアクセス、周辺の医療資源の状況などを勘案し、必要な医療の在り方について検討していくこととしています。</p> <p>また、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、医療の在り方と併せて検討していきます。</p> <p>なお、県民への説明については、今後もセミナーを開催するなど、県民への周知やコミュニケーションの機会を増やしていきたいと考えています。</p>
6	<p>新病院は県病院と民間病院が統合すると聞いていますが、雇用形態が異なり職員の雇用や待遇が気になります。</p>	<p>統合に当たっての職員の雇用に関しては、職員の皆様の意向に応えられるよう検討を進めていきます。</p> <p>各再編対象病院の職員の具体的な処遇や勤務労働条件については、今後、調整していくこととなりますが、職員が安心してやりがいを持って働けることができる環境を整えることが重要であると考えています。</p>
7	<p>地域構想による病院の統廃合再編成は職員・労働者の雇用や身分、地域経済影響を与えます。</p> <p>県病院を例にとると22年4月1日現在県病院には非常勤を含め1512名が働いておられます。</p> <p>他の統廃合される病院にもそれ相応の方々が働いておられます。この方々の雇用保障や身分保障はどのように考えておられるのでしょうか。</p>	<p>統合に当たっての職員の雇用に関しては、職員の皆様の意向に応えられるよう検討を進めていきます。</p> <p>各再編対象病院の職員の具体的な処遇や勤務労働条件については、今後、調整していくこととなりますが、職員が安心してやりがいを持って働けることができる環境を整えることが重要であると考えています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
8	<p>アジアからの富裕層を患者として受け入れることについて新病院は「全国トップレベルの高度医療を提供」とありますが、同様の趣旨で作られた大阪や岡山の新病院はアジアの富裕層を患者として受け入れている(コロナ過で中断)と報道されていますが、広島の新病院も海外からの富裕層を患者として受け入れられることをお考えでしょうか。</p>	<p>本構想では、高度な医療や様々な症例を集積する新病院を整備することによって、県民の皆様に高い水準の医療を提供するとともに、全国から意欲ある医師を惹き寄せ、大学と連携・協働して医師が不足している地域に医師を派遣する体制をつくることを目指しており、まずは、県内の医療体制の充足を優先すべきと考えています。</p>
9	<p>財政負担額、返済計画</p>	<p>新病院を含め公立病院においては、救急・小児・周産期・災害・感染症など不採算・特殊部門に関わる医療や高度・先進医療、へき地医療の提供のほか、広域的な医師派遣の拠点としての機能などが期待されています。とりわけ民間医療機関では限界のある、いわゆる政策医療は、新病院においても重要な役割であると考えており、新病院の運営にあたっては、こうした政策医療に対して一定の県による財政負担が生じるものと考えています。償還計画を含めた収支の具体的な金額については、新病院の持続的な運営が可能となるよう、建築資材・人件費などの原価高騰、金利の動向等を踏まえて精査し、本年9月を目途に策定を進めている新病院の基本計画において、示したいと考えています。</p>
10	<p>新病院の建設に当たり、中国電力やJR西日本は、どの程度の費用を負担するのでしょうか。建築費用の殆どを広島県が負担するのでしょうか。 また、開設後、経常赤字が発生した場合、中国電力やJR西日本にも赤字補填の費用負担を求めるのでしょうか。</p>	<p>新病院については、救急医療や小児医療、周産期医療、災害医療などのいわゆる政策医療を担う県が主体となって整備すべきものと考えています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
11	<p>病院統廃合・再編に伴う「負の経済効果」について地域構想による病院の統廃合再編成は職員・労働者の雇用や身分、地域経済影響を与えます。</p> <p>県病院(南区宇品神田1丁目)は1512名が働いておられる事業所です。このような大きな事業所は、その事業所があることによって「生活の糧を得ている人」が地域に沢山おられます。</p> <p>例えば間接雇用や、お昼の食事やお弁当、見舞いの折の小物やお菓子、駐車場などもありましょう。この方々の生業(なりわい)はどうなるのでしょうか？これらは地域構想による病院の統廃合再編成に伴う「負の経済効果」ですが、どれくらいの規模になるとお考えでしょうか。</p>	<p>医療再編を進めるに当たっては、再編による影響が予想される地域において、皆様が引き続き、安心して医療が受けられる体制について、十分に検討する必要があるものと考えています。</p> <p>このため、県立広島病院及び中電病院が立地する南区・中区の地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めることとしており、3月24日に第1回の会議を開催したところであり、引き続き数回開催する予定です。</p> <p>この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聴きするとともに、両病院の患者を疾患別、住所地別に分析し、将来の医療需要や通院のアクセス、周辺の医療資源の状況などを勘案し、必要な医療の在り方について検討していくこととしています。</p> <p>また、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、医療の在り方と併せて検討していきます。</p> <p>県病院移転による経済的な影響については、移転後の土地の活用策も踏まえて検討する必要があるものと考えています。</p>
12	<p>県病院の外科患者ですが、県病院が今後どうなるか心配です。</p>	<p>医療再編を進めるに当たっては、再編による影響が予想される地域において、皆様が引き続き、安心して医療が受けられる体制について、十分に検討する必要があるものと考えています。</p> <p>このため、県立広島病院及び中電病院が立地する南区・中区の地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めることとしており、3月24日に第1回の会議を開催したところであり、引き続き数回開催する予定です。</p> <p>この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聴きするとともに、両病院の患者を疾患別、住所地別に分析し、将来の医療需要や通院のアクセス、周辺の医療資源の状況などを勘案し、必要な医療の在り方について検討していくこととしています。</p> <p>また、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、医療の在り方と併せて検討していきます。</p>
13	<p>広島大学病院との関係</p>	<p>広島大学病院は、引き続き、特定機能病院として、高度医療(高度救命救急、先進医療、難治性希少疾患の治療等)の提供や県内唯一の医育機関として医師を養成する機能を担うものと考えています。</p> <p>また、広島大学からは、本県医療の抱える課題を踏まえ、持続可能な医療提供体制を確保するため、本構想の実現に向けて協力していくとの意向が示されているところであり、基本計画策定過程においても引き続き緊密に連携し、構想の実現を図っていきます。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
14	経営主体	有識者で構成する「運営形態のあり方検討会」から、新病院の運営形態としては、「一般地方独立行政法人(非公務員型)」が望ましいとの提言があったところです。 県としては、この提言を踏まえ、新病院にふさわしい運営形態について検討を進めることとしています。
15	「高度医療・人材育成拠点」整備構想の大きな目的のひとつに中山間地域医療の医師不足に対応するためとありますが、県北・中山間地域にどのようにして医師を派遣するのでしょうか。	新病院の基本構想におきましては、高度な医療や様々な症例を集積する新病院を整備し、全国から意欲ある医療人材を惹き寄せ、大学と連携・協働して人材の確保・育成・派遣の仕組みを構築することで、将来にわたって県全域の医療提供体制を確保することを目標に掲げています。 具体的には、新病院における人材の確保・育成につきましては、全国的な医師誘致活動の強化に加えて、高度・先進医療の実施や専従指導医の配置により、教育・研修環境を充実することで、県外からの若手医師等の呼び込みに取り組んでいきたいと考えています。 また、中山間地域への医師派遣につきましては、これまでの自治医科大学卒業医師及び大学医学部の地域卒業医師の派遣に加えて、今後は、広島大学や各地域の医療機関と連携して、地域の医療ニーズを収集・共有し、大学と県が一体的に効果的な医師派遣を行う仕組みを検討することとしています。 さらに、中山間地域で勤務する医師等に対する支援策として、オンラインを活用した専門医による診療支援に加え、学会や研修に参加する際の代診医の派遣や、結婚、出産、育児など、ワーク・ライフ・バランスに配慮した勤務条件など、医師等のキャリア形成と生活を支援するなど、中山間地域への派遣が円滑に行われるよう、具体的な仕組みを検討していきます。
16	南区、中区への住民説明はありますが、JR病院をかかりつけとしている地区の住民への説明検討会などはないのでしょうか？	病院が移転する地域(中区及び南区)については、地域住民の代表や地区医師会、有識者、区役所で構成する「地域懇話会」を開催し、地域の意見や要望を聴くこととしています。(第1回は3月24日に開催、今後も数回開催予定) 東区については、地域のかかりつけ医と新病院との連携体制を構築するため、まずは、東区医師会と協議したいと考えています。
17	新病院の進捗状況や発生している問題点を定期的に県民に知らせて頂きたい	県では、令和3年度から高度医療・人材育成拠点に係る協議内容を県のホームページに適宜掲載するとともに、県議会(常任委員会)に進捗状況を報告してきました。今後も引き続きホームページへの掲載や県議会への報告、公開セミナー等により県民への周知やコミュニケーションに努めていきたいと考えています。

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
18	<p>JR広島病院で働く職員です。我々は2016年にJRから法人化へと転籍を経験してきました。その中で、老朽化した建物の新築化や新しい医療機器の導入、新しい診療体制の整備により東区地域住民の皆様により良い医療の提供がなされてきました。この点につきましては、職員のモチベーション向上にも大きく寄与したものと考えます。</p> <p>しかしながら、転籍に伴う雇用条件の低下が著しく、今でも転籍すべきではなかったのではないかと後悔しています。今回の施策において、患者さんが受ける医療サービスの向上はもとより、そこで働く医師やコメディカルの雇用条件の悪化や働き甲斐の低減をきたさない取り組みをお願い致します。</p>	<p>高度医療・人材育成拠点構想では、新病院の基本的な考え方として、職員がゆとりとやりがいをもって働くことができるよう、福利厚生の充実など労働環境を整備することを掲げており、職員の具体的な処遇や勤務労働条件については、今後、関係者と協議してまいります。</p>
19	<p>もっと詳しく知りたい。</p>	<p>「高度医療・人材育成拠点 基本構想」及び構想の実現に向けた取組については、広島県のホームページで適宜公表しています。 https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/life/889366_8272458_misc.pdf</p>
20	<p>新病院に期待します。</p>	<p>新病院の基本構想は、高度な医療や様々な症例を集積する新病院を整備することによって、県民の皆様が高い水準の医療を提供するとともに、全国から意欲ある医師を惹き寄せ、大学と連携・協働して医師が不足している地域に医師を派遣する体制をつくることを目指すものです。</p> <p>特に、急性期医療の医療資源を集約することで、長年の課題である広島都市圏の救急搬送困難事例を解消するとともに、いわゆる「こども病院」的な機能を備え、災害時や感染症拡大時に迅速かつ適切に医療を提供できるよう、医療体制を強化したいと考えています。</p> <p>こうした取組により、県民の皆様が安心して暮らし続けることができる万全の体制を整えていきたいと考えています。</p>
21	<p>新病院の今後について、広報活動をしてもらいたいです。</p>	<p>県では、令和3年度から高度医療・人材育成拠点に係る協議内容を県のホームページに適宜掲載するとともに、県議会(常任委員会)に進捗状況を報告してきました。今後も引き続きホームページへの掲載や県議会への報告、公開セミナー等により県民への周知やコミュニケーションに努めていきたいと考えています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
22	新病院ができることによる、国民の税金等の負担は変わりますか。	新病院の基本構想は、広島都市圏の急性期医療資源を集約することによってマンパワーのそのスケールメリット(救急患者の応需率の向上等)を創出するとともに、高額医療機器の稼働率の向上を図ることを目指しており、こうした効率的な医療体制は医療費の抑制にもつながることが期待できます。
23	高度医療体制の重要性は理解できるが、そこから発展する一般医療への適用の在り方も知りたい。	<p>新病院が目指す高度医療とは、他の医療機関では体制整備が難しい最新の医療技術を備えることで、患者の皆様にとって、安全かつ身体に負担の少ない医療を提供することを想定しており、現時点では、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡を使って胃がんや大腸がん、肺がんなどを切除する手術や手術支援ロボットによる腹腔鏡手術、 ・がんの原因となる遺伝子の変異に基づいて診断・治療を行う「がんゲノム医療」、 ・手術台とX線撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術室で行う脳疾患や循環器疾患の治療、 ・ハイリスクの妊娠・分娩や低出生体重児、先天性疾患などを有する子どもの医療、 ・県内初の小児集中治療室「PICU」の整備による集中治療が必要な子どもの治療や看護ケア <p>などの高度医療を広島大学と連携しながら提供するとともに、新病院でこうした最新の医療技術の修練を積んだ医師を他の圏域に派遣するなど、地域と連携しながら県内全域の医療レベルの底上げを図りたいと考えています。</p>
24	今回のようなパンデミック的状况へのかかわり方は？	<p>新興・再興感染症拡大時に機動的に対応できる体制を整備することとし、次のとおり検討していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興・再興感染症拡大時に一般病床から速やかに感染症対応病床に転換できる体制(陰圧制御、個室、検査装置等)を整備する。 ・感染症拡大時に機動的に対応するため、平時から職員に対する感染症対応の研修を行うとともに、県内医療機関のスタッフに対しても大学病院と連携して研修を実施する。 ・医療機関や社会福祉施設等におけるクラスター発生に迅速に対応できるよう、広島大学と協同して感染症専門医及び感染症認定看護師等を育成する。

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
25	患者や医療従事者の方々にとって、県内・県外も含め良い施設になるよう期待しています。	<p>新病院の基本構想は、高度な医療や様々な症例を集積する新病院を整備することによって、県民の皆様の高い水準の医療を提供するとともに、全国から意欲ある医師を惹き寄せ、大学と連携・協働して医師が不足している地域に医師を派遣する体制をつくることを目指すものです。</p> <p>特に、急性期医療の医療資源を集約することで、長年の課題である広島都市圏の救急搬送困難事例を解消するとともに、いわゆる「こども病院」的な機能を備え、災害時や感染症拡大時に迅速かつ適切に医療を提供できるよう、医療体制を強化したいと考えています。</p> <p>こうした取組により、県民の皆様が安心して暮らし続けることができる万全の体制を整えていきたいと考えています。</p> <p>さらに、高度医療・人材育成拠点構想では、新病院の基本的な考え方として、職員がゆとりとやりがいをもって働くことができるよう、福利厚生充実など労働環境を整備することを掲げており、その具体策を検討していくこととしています。</p>
26	拠点化で遠くなる、待ち時間・混雑化が心配。拠点病院は高度医療、中間的病院は慢性化対応医療等の区分はどうですか。介護的医療が進んでないと思われる現状を踏まえてください。	<p>地域の限られた医療資源を有効に活用するためには、個々の医療機関が全ての医療ニーズに対応する「病院完結型医療」ではなく、医療機関がそれぞれの得意分野を活かして医療機関同士の連携により患者を地域全体で治し、支える「地域完結型医療」への転換が求められています。(平成25年8月6日社会保障制度改革国民会議報告書)</p> <p>「地域完結型医療」の実現により、医療資源の全体最適が図られ、患者の状態に応じた切れ目のない医療・介護体制が構築できると考えています。</p> <p>「地域完結型医療」の一翼を担う新病院は、政策医療、高度医療、人材育成・循環機能を担うことを想定しており、新病院に急性期を集約する一方で、周辺の病院には急性期から回復期の医療や介護医療院等へ転換していただくことで患者の状態に応じた適切な病床を確保したいと考えています。</p> <p>また、ITツールやデジタルテクノロジー(DX)を導入して、待ち時間の短縮を図ることを検討していきます。</p>
27	懇話会に住民代表、患者の声が反映されないのではないですか。「関係者の皆様」と閉会挨拶でも述べられましたが、広大や医師会よりも地域住民(県民)こそ一番の関係者です。	<p>県立広島病院移転後も、引き続き安心して医療が受けられる体制について検討する必要があるため、地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めています。</p> <p>この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聞きしながら、地域の医療体制を検討するとともに、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、地域に必要な医療以外の機能の充実も図られるよう検討していきたいと考えています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
28	<p>新病院をつくることと、県病院もしくはその後の「病院」を残すことは矛盾しないと思います。今日の講演内容からしても、宇品にしっかりした病院は必要ですね。しっかり住民意見に耳を傾けてください。</p>	<p>身近な地域のかかりつけ医は、地域住民の日常的な医学管理や在宅療養の支援などを担っていますが、急性期医療については、限りある医療資源が分散していると、救急患者の応需率やがん患者の手術待ち、複数の疾患がある高齢患者などに十分対応できません。また、医師の働き方改革が導入されると、夜間・休日の救急患者の受入体制が維持できなくなるおそれがあります。このため、急性期医療を集約し、そのスケールメリットにより医療体制を維持する必要があります。</p> <p>病院の再編を進めるに当たっては、再編による影響が予想される地域において、皆様が引き続き、安心して医療が受けられる体制について、十分に検討する必要があるものと考えています。</p> <p>このため、県立広島病院及び中電病院が立地する南区・中区の地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めることとしており、3月24日に第1回の会議を開催したところであり、引き続き数回開催する予定です。</p> <p>この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聴きするとともに、両病院の患者を疾患別、住所地別に分析し、将来の医療需要や通院のアクセス、周辺の医療資源の状況などを勘案し、必要な医療の在り方について検討していくこととしています。</p> <p>また、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、医療の在り方と併せて検討していきます。</p>
29	<p>新病院が必要な根拠についてはよくわかりました。開設にあたり予測されるデメリットについても、レジュメに提示していただければよかったです。(良い面だけでなく、多面的に検証されていることがよりわかりやすいと考えます。)</p>	<p>病院再編に係るデメリットとしては、県立広島病院や中電病院に通院する患者さんの受療環境が変化することが想定され、患者さんによっては、医療機関までのアクセスが遠くなる場合が想定されます。こうしたデメリットを最小限にするため、再編後の地域の医療体制のあり方について検討していきます。</p>
30	<p>救急の現場で働いています。土日、祝日他、夜間はベッドが足りません。救命センターやICUベッドが1床もなくて17時開始となる日も多いです。その中で足りなくありませんか、救急ベッド、人員(DrもNsも他も)</p>	<p>救急の課題として、令和2年広島市消防局管内において医療機関が重症の救急患者の受入れを断った1,580件の理由についてみると、「ベッドが満床」という理由は14%で、人手不足や傷病者の症状に対処する設備、資器材がないといった「処置困難」によるものが最も多く46%を占めています。</p> <p>こうした状況は、病床規模が比較的小さい病院や特定の診療分野に特化した病院が多く、医療資源が分散していることが、救急患者の受入れ困難につながっているものと考えています。</p> <p>こうした課題を解決するため、新病院に医療資源(医療スタッフ、病床、医療機器)を集約し、“断らない救急”を実現したいと考えています。</p>
31	<p>すばらしい病院ができるように。医師も充実した病院を。</p>	<p>医師の確保・育成につきましては、全国的な医師誘致活動の強化に加えて、高度・先進医療の実施や多彩な症例、充実した教育・研修環境整備することにより、県外からの若手医師等の呼び込みに取り組んでまいりたいと考えています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
32	説明を聞いて納得!すばらしいと思いました。	<p>新病院の基本構想は、高度な医療や様々な症例を集積する新病院を整備することによって、県民の皆様の高い水準の医療を提供するとともに、全国から意欲ある医師を惹き寄せ、大学と連携・協働して医師が不足している地域に医師を派遣する体制をつくることを目指すものです。</p> <p>特に、急性期医療の医療資源を集約することで、長年の課題である広島都市圏の救急搬送困難事例を解消するとともに、いわゆる「こども病院」的な機能を備え、災害時や感染症拡大時に迅速かつ適切に医療を提供できるよう、医療体制を強化したいと考えています。</p> <p>こうした取組により、県民の皆様が安心して暮らし続けることができる万全の体制を整えていきたいと考えています。</p>
33	既存の急性期病院を含めて地域連携(地域包括を含めた)を強化してほしい。HMネットの拡大と活用をお願いします。	<p>地域の医療機関等のニーズに応えるため、引き続きHM ネットの機能を強化し、その魅力を高めることで、参加施設数の拡大につなげるとともに、更なる活用を通じて地域連携の強化を図ります。</p> <p>将来的にはデジタルトランスフォーメーション(DX)による高付加価値化の実現を目指し、HM ネットで扱う診療情報を医療の高度化や治療研究等への活用を検討してまいります。</p>
34	1箇所にまとめるのは患者負担が大きいのではと考えます。人口的(子どもの数等)を考えると、県立広島病院を移転することは不安です。3病院を合わせて今時点で1000床以上あるのに、新病院が1000床では縮小しているのでは？	<p>今後、高齢者人口の増加に伴って高齢者の救急患者が増えることが見込まれる中で、広島都市圏では医療資源が分散しているため、個々の医療機関では人手不足を理由として救急患者を確実に受け入れることができない状況にあります。</p> <p>また、2024年から始まる医師の働き方改革で医師の時間外勤務の上限規制(年間1,860時間、2036年から960時間)が導入されると、ますます夜間の救急医療体制が維持できなくなるおそれがあります。</p> <p>さらに、本県では、若手医師が減少傾向にあり、中山間地域などの医師不足がより深刻になるおそれがあり、若手医師が望む多くの症例が経験でき、指導体制が充実している病院の存在が期待されています。</p> <p>このため、医療資源を集約することで救急患者の応需率を高めるとともに、医師を惹きつけ、地域に派遣できる拠点となる病院を整備しようとするものです。</p> <p>今回の再編は、急性期を新病院に集約し、周辺の病院には急性期から回復期への転換を求めるものであり、広島医療圏で過剰となっている急性期病床を減らし、不足する回復期病床を増やすという地域医療構想の方向性と合致するものです。</p> <p>具体的な病床機能別の病床数は、今後の各病院との調整により決定することとなります。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
35	市民・住民の意見を聴くべき	<p>医療再編を進めるに当たっては、再編による影響が予想される地域において、皆様が引き続き、安心して医療が受けられる体制について、十分に検討する必要があるものと考えています。</p> <p>このため、県立広島病院及び中電病院が立地する南区・中区の地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めることとしており、3月24日に第1回の会議を開催したところであり、引き続き数回開催する予定です。</p> <p>この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聴きするとともに、両病院の患者を疾患別、住所地別に分析し、将来の医療需要や通院のアクセス、周辺の医療資源の状況などを勘案し、必要な医療の在り方について検討していくこととしています。</p> <p>また、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、医療の在り方と併せて検討していきます。</p>
36	今後の地域医療に十分に役立ってほしいです。	<p>県内若手医師の減少や医師の地域偏在などの課題解消し、地域の医療提供体制を維持するため、医療人材の確保、育成・循環(派遣)の仕組みの整備について検討を進めています。</p>
37	かかりつけ医院と新病院が一体となって良くなることに期待しています。	<p>地域のかかりつけ医を含め、個々の医療機関がそれぞれの得意分野を活かして医療機関同士の連携により患者を地域全体で治し、支える「地域完結型医療」を実現することで、医療資源の全体最適が図られ、患者の状態に応じた切れ目のない医療・介護体制が構築できると考えています。こうした機能分化・連携体制の構築に向けて、地域医療構想調整会議などを通じて地域の合意形成を図っていきます。</p>
38	7年後を楽しみに(便利性)しています。	<p>新病院の基本構想は、高度な医療や様々な症例を集積する新病院を整備することによって、県民の皆様の高い水準の医療を提供するとともに、全国から意欲ある医師を惹き寄せ、大学と連携・協働して医師が不足している地域に医師を派遣する体制をつくることを目指すものです。</p> <p>特に、急性期医療の医療資源を集約することで、長年の課題である広島都市圏の救急搬送困難事例を解消するとともに、いわゆる「こども病院」的な機能を備え、災害時や感染症拡大時に迅速かつ適切に医療を提供できるよう、医療体制を強化したいと考えています。</p> <p>こうした取組により、県民の皆様が安心して暮らし続けることができる万全の体制を整えていきたいと考えています。</p>
39	交通の便利性から紹介状を貰えるのか？	<p>患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、県立広島病院及びJR広島病院は、紹介患者に対する医療提供など、地域医療を担うかかりつけ医を支援する「地域医療支援病院」として県知事が承認しています。新病院についても、引き続き「地域医療支援病院」として紹介患者に必要な医療を提供していきたいと考えています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
40	先日、安佐市民病院に入院をした友人家族の方から聞いた話だが、設備が新しく感心したと言っていた。特にベッドサイドにカメラがあえり、ナースコールが呼ばれた映像が録画されていると聞いた。ぜひ新病院でもその様な新しい設備を検討いただきたい。	ICT技術を各領域で横断的に活用することで病院機能を向上させ、次世代スマートホスピタルの実現に向けて、 <ul style="list-style-type: none"> ・医療の質向上 ・医療安全の確保 ・中央診療部門の機能強化による医療の効率化 ・チーム医療の促進(患者エンゲージメントの向上) ・業務効率化等による働き方改革への支援 ・病院経営の持続可能性を高めるための安定化 などについて具体的に検討を進めていきます。
41	新病院の構想にある、ICT化“スマートホスピタル”について、具体的にどの様な構想ICT化なのか、よくわからない部分が多い。	ICT技術を各領域で横断的に活用することで病院機能を向上させ、次世代スマートホスピタルの実現に向けて、 <ul style="list-style-type: none"> ・医療の質向上 ・医療安全の確保 ・中央診療部門の機能強化による医療の効率化 ・チーム医療の促進(患者エンゲージメントの向上) ・業務効率化等による働き方改革への支援 ・病院経営の持続可能性を高めるための安定化 などについて具体的に検討を進めていきます。
42	財政計画を示してください。	新病院を含め公立病院においては、救急・小児・周産期・災害・感染症など不採算・特殊部門に関わる医療や高度・先進医療、へき地医療の提供のほか、広域的な医師派遣の拠点としての機能などが期待されています。とりわけ民間医療機関では限界のある、いわゆる政策医療は、新病院においても重要な役割であると考えており、新病院の運営にあたっては、こうした政策医療に対して一定の県による財政負担が生じるものと考えています。償還計画を含めた収支の具体的な金額については、新病院の持続的な運営が可能となるよう、建築資材・人件費などの原価高騰、金利の動向等を踏まえて精査し、本年9月を目途に策定を進めている新病院の基本計画において、示したいと考えています。

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
43	新病院を設置(作る)としても現在の病院を無くす理由にならないのでは？	<p>今後、高齢者人口の増加に伴って高齢者の救急患者が増えることが見込まれる中で、広島都市圏では医療資源が分散しているため、個々の医療機関では人手不足を理由として救急患者を確実に受け入れることができない状況にあります。</p> <p>また、2024年から始まる医師の働き方改革で医師の時間外勤務の上限規制(年間1,860時間、2036年から960時間)が導入されると、ますます夜間の救急医療体制が維持できなくなるおそれがあります。</p> <p>さらに、本県では、若手医師が減少傾向にあり、中山間地域などの医師不足がより深刻になるおそれがあり、若手医師が望む多くの症例が経験でき、指導体制が充実している病院の存在が期待されています。</p> <p>このため、医療資源を集約することで救急患者の応需率を高めるとともに、医師を惹きつけ、地域に派遣できる拠点となる病院を整備しようとするものであり、こうした医療資源の集約により期待される効果として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 症例が集積され、経験値が高まることで治療成績が上がる。 ・ 多くの症例を経験できることで県外から医師が集まる。 ・ マンパワーの充実により、救急患者の応需率が高まる。 ・ マンパワーの充実により、新興感染症対応力が高まる。 ・ マンパワーに余力が生まれ、医療従事者の負荷が減る。 ・ 広域的な人事交流により、医師の偏在解消が図られる。 ・ 高額医療機器の稼働率が上がり、採算性が向上する。 <p>などがあるものと考えています。</p> <p>現在地に県立病院を残すことは、こうした集約効果を薄めることとなり、所期の目的が達成できないおそれがあります。</p>
44	新病院への県行政の関与を無くす理由は？	<p>新病院の運営形態として、地方公営企業法全部適用、地方独立行政法人、指定管理者制度の3つが想定されますが、どの運営形態であっても、県は関与していくこととなります。</p> <p>こうした中、「高度医療・人材育成拠点の運営形態のあり方検討会」において、次の理由により、新病院の運営形態は一般地方独立行政法人(非公務員型)とすることが望ましいとの提言がなされました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知事が中期目標を定め、地方独立行政法人に指示することで、政策医療の実施を担保できること。 ・ 中期目標、中期計画の範囲内で、柔軟な病院経営が可能であること。 ・ 知事や県議会、評価委員会による評価とチェック機能や、業務実績の評価結果の反映状況の公表など業務の透明性の確保が、地方独立行政法人によって義務付けられており、合理性と効率性を備えた仕組みが十分に機能し、持続可能な病院経営が期待できること。 <p>本県としては、提言内容を踏まえ、新病院にふさわしい運営形態について、引き続き検討を進めています。</p>

新病院に関するご意見・ご質問(R5.3.19 最新医療に関する県民公開セミナー)への回答

番号	ご意見・ご質問	県の考え方
45	南区・中区医療を見捨てる理由は？	<p>医療再編を進めるに当たっては、再編による影響が予想される地域において、皆様が引き続き、安心して医療が受けられる体制について、十分に検討する必要があるものと考えています。</p> <p>このため、県立広島病院及び中電病院が立地する南区・中区の地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めることとしており、3月24日に第1回の会議を開催したところであり、引き続き数回開催する予定です。</p> <p>この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聴きするとともに、両病院の患者を疾患別、住所地別に分析し、将来の医療需要や通院のアクセス、周辺の医療資源の状況などを勘案し、必要な医療の在り方について検討していくこととしています。</p> <p>また、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、医療の在り方と併せて検討していきます。</p>
46	地域懇話会の内容を公表してください。	<p>地域懇話会の内容については、県のホームページで議事概要を掲載するとともに、県議会(常任委員会)に報告する予定です。</p> <p>なお、3月24日に開催した地域懇話会の内容については、議事概要を県ホームページで掲載しています。</p> <p>https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/saiheniryoutaisei.html</p>
47	地域懇話会は数回やって住民の理解をうながしてください。	<p>医療再編を進めるに当たっては、再編による影響が予想される地域において、皆様が引き続き、安心して医療が受けられる体制について、十分に検討する必要があるものと考えています。</p> <p>このため、県立広島病院及び中電病院が立地する南区・中区の地域住民の代表や地区医師会、公衆衛生やまちづくりの有識者で構成される地域懇話会を設置し、検討を進めることとしており、3月24日に第1回の会議を開催したところであり、引き続き数回開催する予定です。</p> <p>この懇話会では、地元住民や有識者の意見をお聴きするとともに、両病院の患者を疾患別、住所地別に分析し、将来の医療需要や通院のアクセス、周辺の医療資源の状況などを勘案し、必要な医療の在り方について検討していくこととしています。</p> <p>また、県立広島病院移転後の土地の活用策につきましても、地域のニーズを踏まえながら、医療の在り方と併せて検討していきます。</p>